

活用事例③

愛知県立港特別支援学校
小原保男

■活動した学部・学年：小学部4年

■主障害名：脳性まひ等

■各教科等名：生活単元学習

■学習形態：一斉授業

■本の名前：

『おとうさんはウルトラマン』

■対象となる子どもたちの実態

- ・対象となる学級の子どもたちは、自立活動を主とした教育課程で学習しており、興味・関心の幅を広げ、主体的な動きや表現を広げられるよう、学習に取り組んでいる。
- ・どの子どもも、絵本の読み聞かせの活動には関心が高く、積極的に活動に参加している。読み聞かせを聞いているときの子どもの様子を見ると、自分の好きな動物や食べ物が登場したり、聞きなじみのあるせりふが出てくると、表情を変化させたり、声を出したりしながら、うれしい気持ちを表現しつつ、楽しそうに読み聞かせの活動に参加している。
- ・この絵本の作者、みやにしたつやさんの絵本は、本校の子どもにとっても人気が高く、今回対象となる学級の子どもにも読み聞かせで使うことが多い。
- ・今回は父の日が近いということもあり、

この本の読み聞かせを通じて、自分のお父さん、お母さんに対する感謝の気持ちや大好きな気持ちを育てられるような指導を行った。

■学習のねらい

この絵本の読み聞かせをとおして、身近な家族への関心をもち、感謝の気持ちや大好きな気持ちを伝えようとする姿を育てたい。

また、絵柄を見ながら好きなものを見い出したり、言葉のひびきやリズム感を楽しんでほしい。

■使用した機材

大型テレビ、大型テレビと接続するHDMIケーブル、わいわい文庫の入った携帯情報端末（iPad）

■実際の様子について

【使用中の写真】



【実際の様子】

わいわい文庫の入ったiPadを大型テレビに映し、絵本の読み聞かせを楽

しんだ。iPadに入っていることで、準備時間を短縮することができた。

このことのメリットとして、授業準備や展開をスムーズに行うことができることと、児童にとっても絵本の画面へ意識を途切らせずに活動に参加できることだと感じている。

読み聞かせが始まると、きれいな絵柄に目を奪われつつ、テンポのよい読み聞かせの言葉に集中して引き込まれている様子が見て取れた。

また、知っている言葉や、好きな絵柄が出てくると、うれしそうな表情を浮かべたり、喜びの声を上げて読み聞かせを楽しんでいる様子が見られた。

次の時間でも、わいわい文庫の他の絵本を使い、読み聞かせを行ったが、準備をしている間、とても楽しみに待っている児童の姿が見られた。

■本に対する情報提供など

【本の画面】



【本の情報】

- ・本校の子どもたちにも人気のある、みやにしたつやさんの絵本。不器用ながらも、一生懸命、子育てに参加するウルトラ・パパの絵日記風の絵本で、子どもたちには身近な言葉が多く使われ、簡潔な言葉が多く使われているので、低学年の児童には最適の絵本である。
- ・わいわい文庫を使い、大型テレビで絵本を見ると、きれいな配色であることからか、子どもたちも集中して、画面を見ている様子が見て取れる。